

あの、黒土三男監督が福智町に。

青少年健全育成講演会

日時 3月7日金 19時開演

会場 福智町地域交流センター（伊方）

講師 黒土三男 氏（映画監督・脚本家）

演題 映画を見る幸福

参加 無料

問 福智町教育委員会 生涯学習・人権同和教育課 生涯学習係 28-2046



黒土三男（くろつち・みつお）

映画監督・脚本家

1947年3月3日生まれ。熊本県出身。立教大学法学部卒業後、木下恵介プロダクションに助監督として2年間所属。以後独立してフリーの映画監督、脚本家として活躍。NHK金曜時代劇「蝉しぐれ」の脚本も監督自身が執筆。第1話「蝉しぐれ／嵐」がモンテカルロ国際テレビ祭・ドラマ部門のグランプリを受賞した。

【監督作品】

「オルゴール」（89年）「渋滞」（91年）
「英二」（99年）「蝉しぐれ」（05年）

【テレビドラマ脚本代表作】

「オレゴンから愛」（84年）

「親子ゲーム」（86年）「とんぼ」（88年）

黒土監督の代表作「蝉しぐれ」。原作:藤沢周平「蝉しぐれ」文藝春秋 / 監督・脚本:黒土三男 05年公開



人は、果たせなかつた思いとともに生きていく。

忘れようと、忘れ果てようと、してても、
忘れられるものではないません」
刀を借りしたい。当屋敷にあるだけの刀を「
育ててくれて、ありがとうございました」と
言うべきだった」
この世に悔いを持たぬ人など、いないでしようから
軽輩とみて、悔られましたな」
父を、尊敬していると言えばよかったです」
俺はやる。しかし、むさむざ罵にはまるつもりはない」

舞台は東北の小藩。貧しいながらもつましく生きる牧文四郎が、少年期から体験する辛苦と、幼馴染のおふくとの切なく美しい恋を軸に展開する。藤沢周平の最高傑作「蝉しぐれ」を、藤沢氏から唯一映像化を認められた黒土監督が、構想から15年の歳月をかけて完成。出演／市川染五郎、木村佳乃、原田美枝子、緒形拳ほか



一 最近、心の健康のバランスを欠く人が増えているという。その原因はいくつか考
えられるが、職場や日常生活上の人間関係に端を発するケースが、圧倒的に多いのではないかだろうか。高度に発達した情報化社会で、かつての濃密な人と人とのつながりが希薄になってしまったことも、そうした傾向に拍車をかける大きな要因になっているのではないか。一方で、自己の目標達成に向け、思うよ
うな結果を出せずに、悩みが高じて精神を悪う人も多いと聞く。樂天的思考の私には、極限まで自分自身を追いつめるような内心の葛藤を演じた経験はないが、改めて、人間という存在の繊細さを認知させられたような気がする。人の心の中を正確に伺い知ることは不可能だが、表情や言動である程度、心理状態は把握できる。私達は、それぞれ個々の存在であると同時に、社会という組織の構成員でもある。しかも、悠久の時の流れの中で、生を共にする同士の「このこと」になる。そう考えると、地球家族の一員である一人ひとりが、心の病に冒されることなく、時を刻んでほしいと願うのは、私ばかりではないと思つよく、同じ目線に立つて」と言われるが、相手の立場や状況を理解して、と置き換えるべきいいのだろうか。いずれにし
ても、「このような目線がいたるところであれば、きっと救われる人もいるはずだ。

浦田弘二